



化学物質情報の伝達について

電機・電子業界から見たグローバル規制対応

2009年12月3日

(社)電子情報技術産業協会 関西支部

環境対策委員会 (パナソニック電工(株))

村越 茂富

グローバル規制と電機・電子業界

- ・ 従来、化学物質含有情報は化学業界が把握し、作業安全中心でとらえられてきた。 ⇒ 原材料以外は対象外
- ・ 安全性の評価は行政側の責任で進められてきた。
- ・ 既存化学物質についての再評価は進んでいなかった。



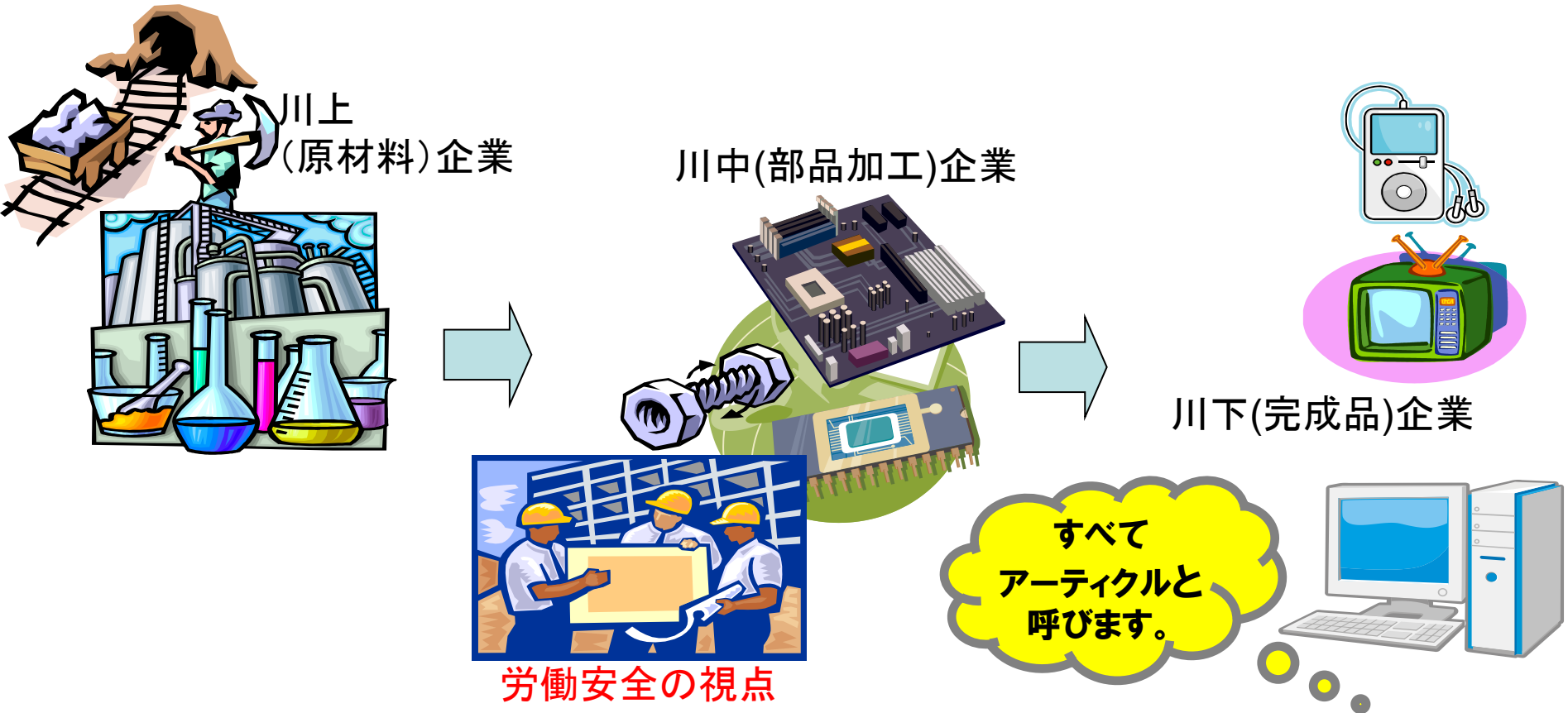
特に電機・電子製品の
2007年より

輸出先でもある欧州市場では
REACHにおいて



- ・ **製品（アーティクル）中の含有化学物質についても規制される動きが出てきた。**
- ・ 安全性の評価を産業界側の負担で実施するよう求められるようになってきた。
- ・ 新規化学物質だけでなく、既存物質の安全性再評価が求められるようになった。

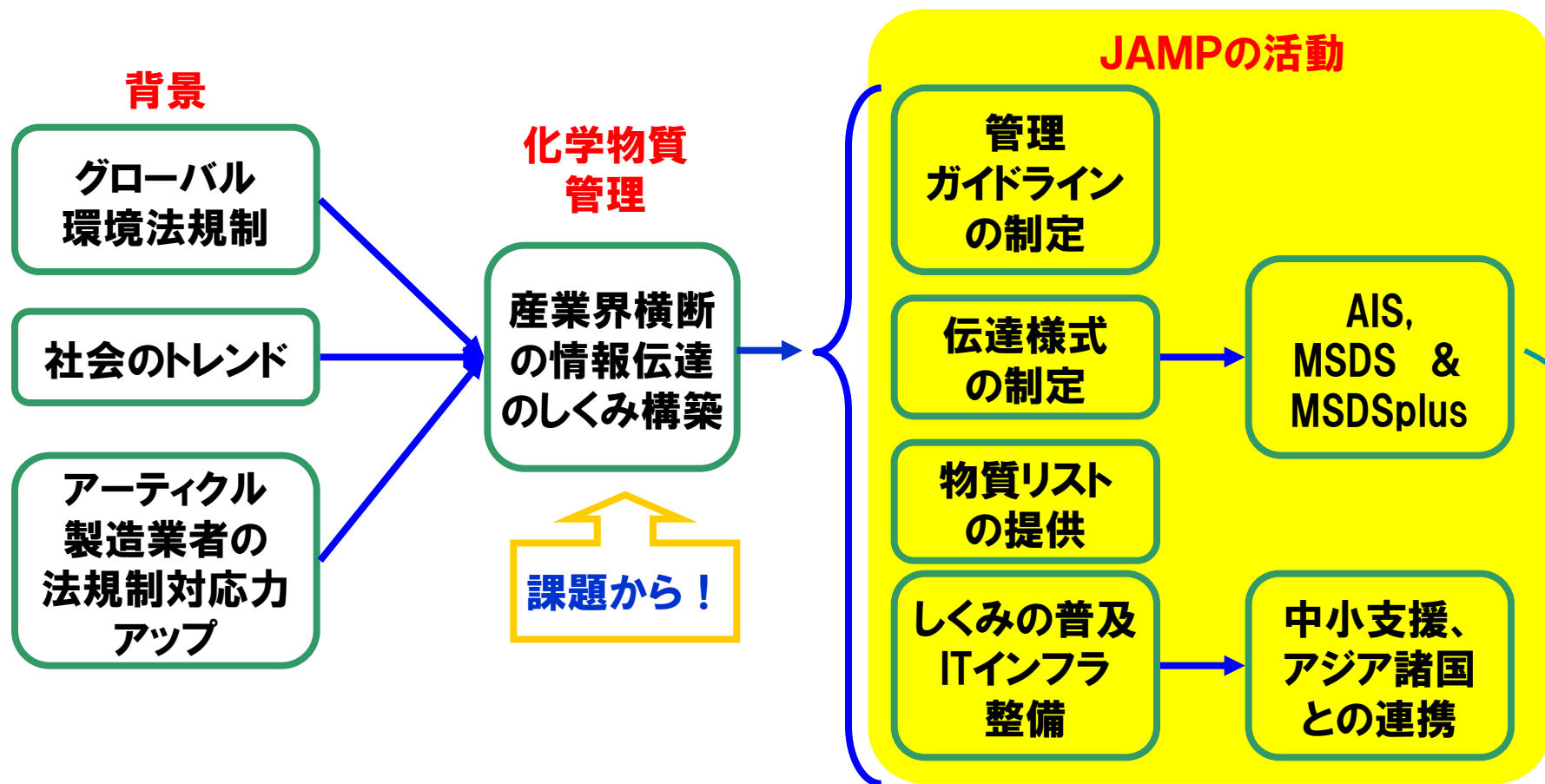
物質情報伝達の課題



- 川上企業からの情報が適切に伝達される仕組みが必要（逆に、川下からの用途情報も！）
- 加工段階での濃度変化、化学反応の定量把握が必要（専門家の養成）



ア－ティクルマネジメント推進協議会(JAMP)の設立



なんという有害物質がどこに、どのくらい含まれている...



JAMP 紹介

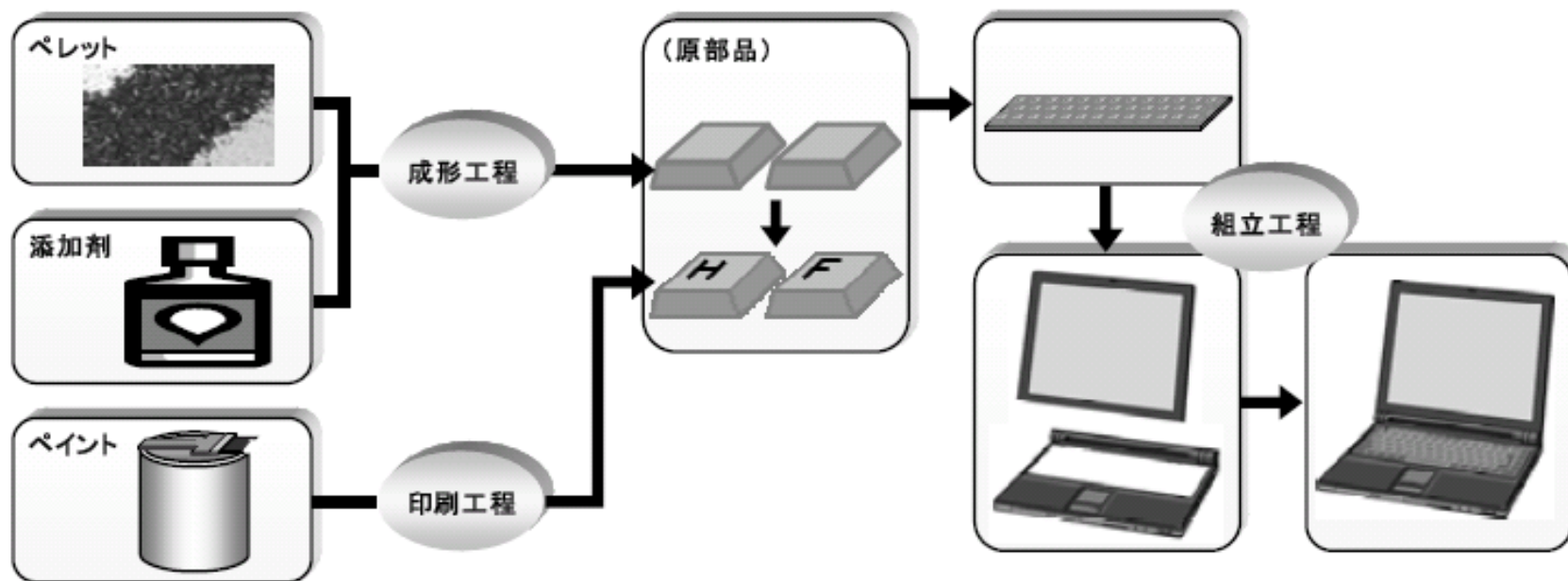


Webサイト:

日本語: <http://www.jamp-info.com/>

英語: <http://www.jamp-info.com/english>

会員数: 358 (2009/11/9 現在)



業界横断活動の重要性

業界事情

業界毎の
個別慣習

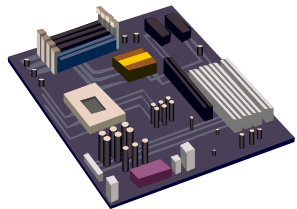
- ・薬品、調剤の為の管理様式
- ・リサイクルの為の管理様式
- ・車業界の管理システム



運用方法

バラバラな
要求の
しかたが
混乱招いた

- ・A社様式
- ・B社様式への書き換え
- ・ネットでのログイン方式要請



JAMPの活動

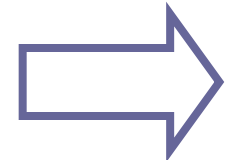
伝達方法の
標準化、
効率化

要件

日本の
国際競争力
確保

業界横断の
調整機能が
必要

行政と
産業界の
連携



有害化学物質リスクを最小化！

ITツール、ネットワークインフラの活用

背景

物質情報は物の流れと共に!

SC管理が複雑化し、迅速化必要

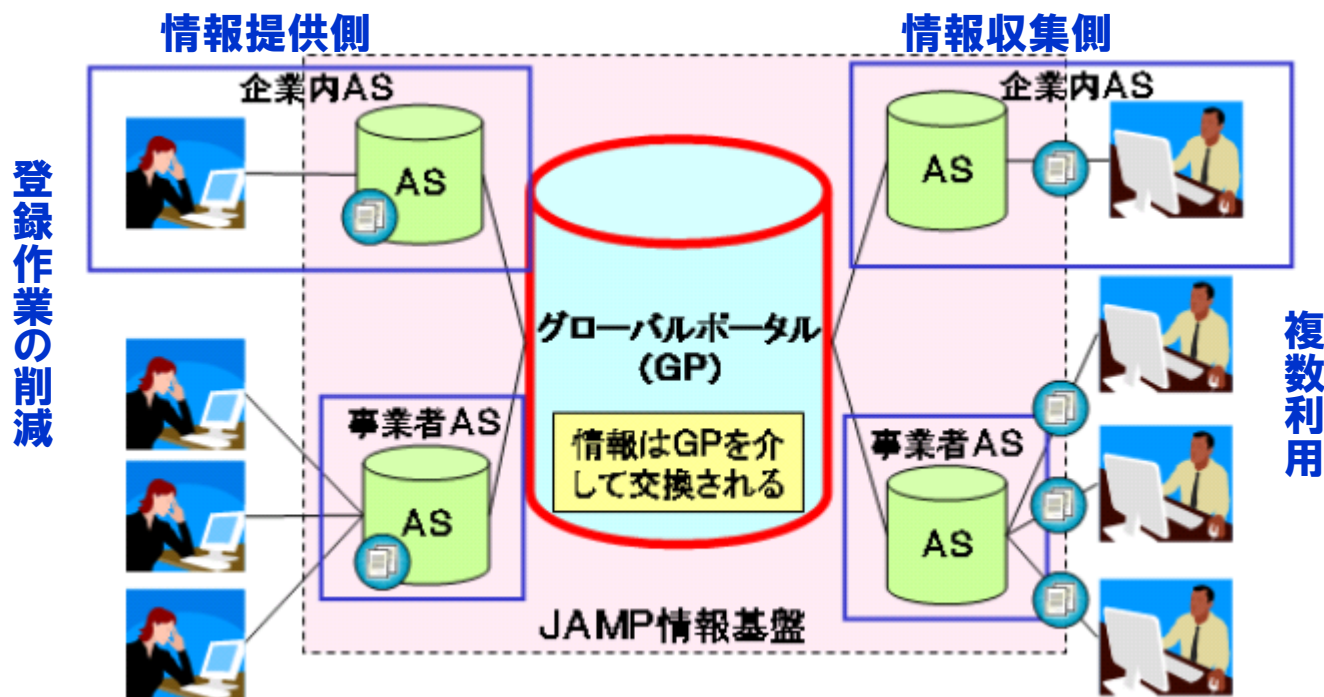
情報交換コストの肥大化

標準化された情報化基盤が必要

運用

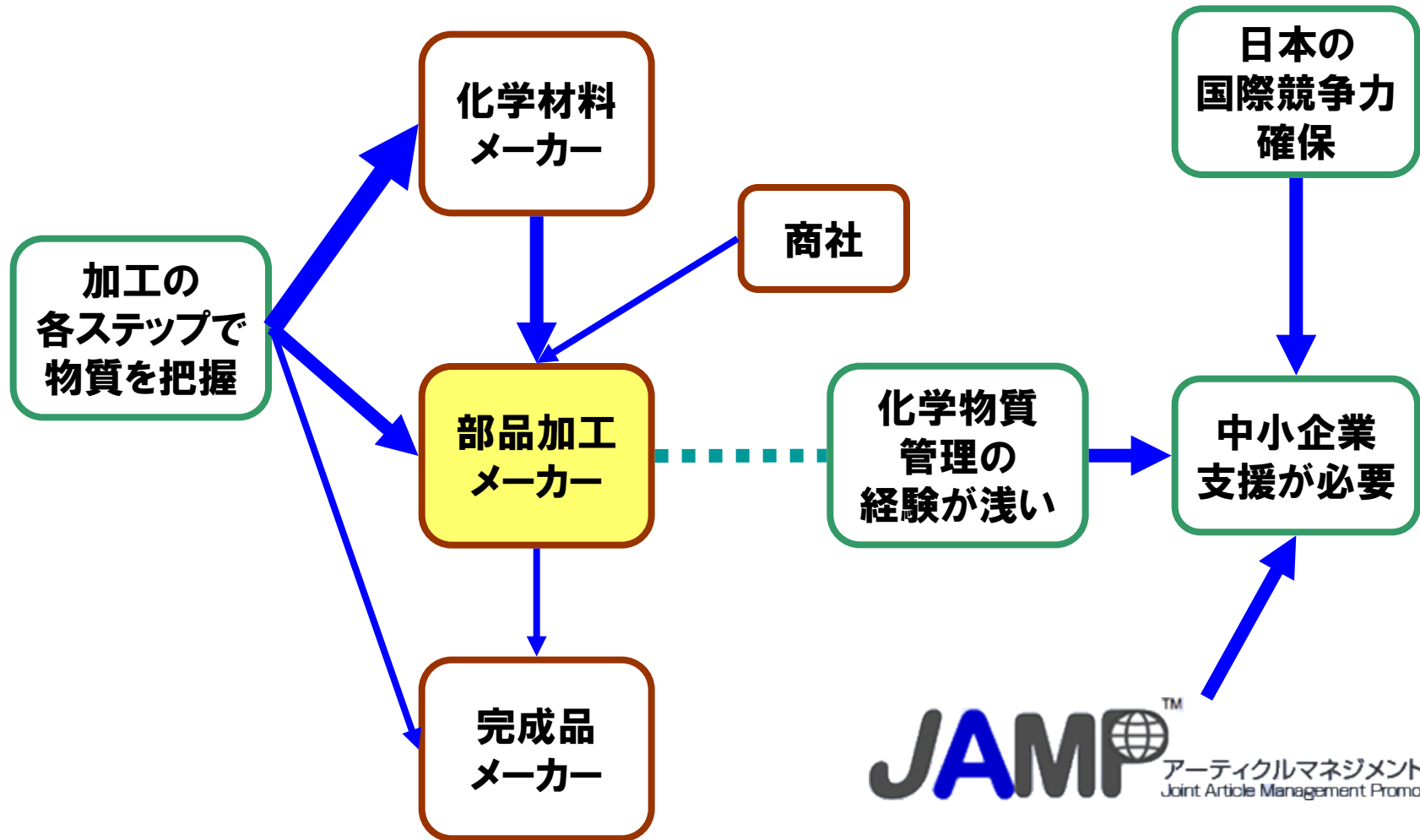
電子商取引(EC)の一部として運用

事業規模に応じて電子メールベースでも運用可

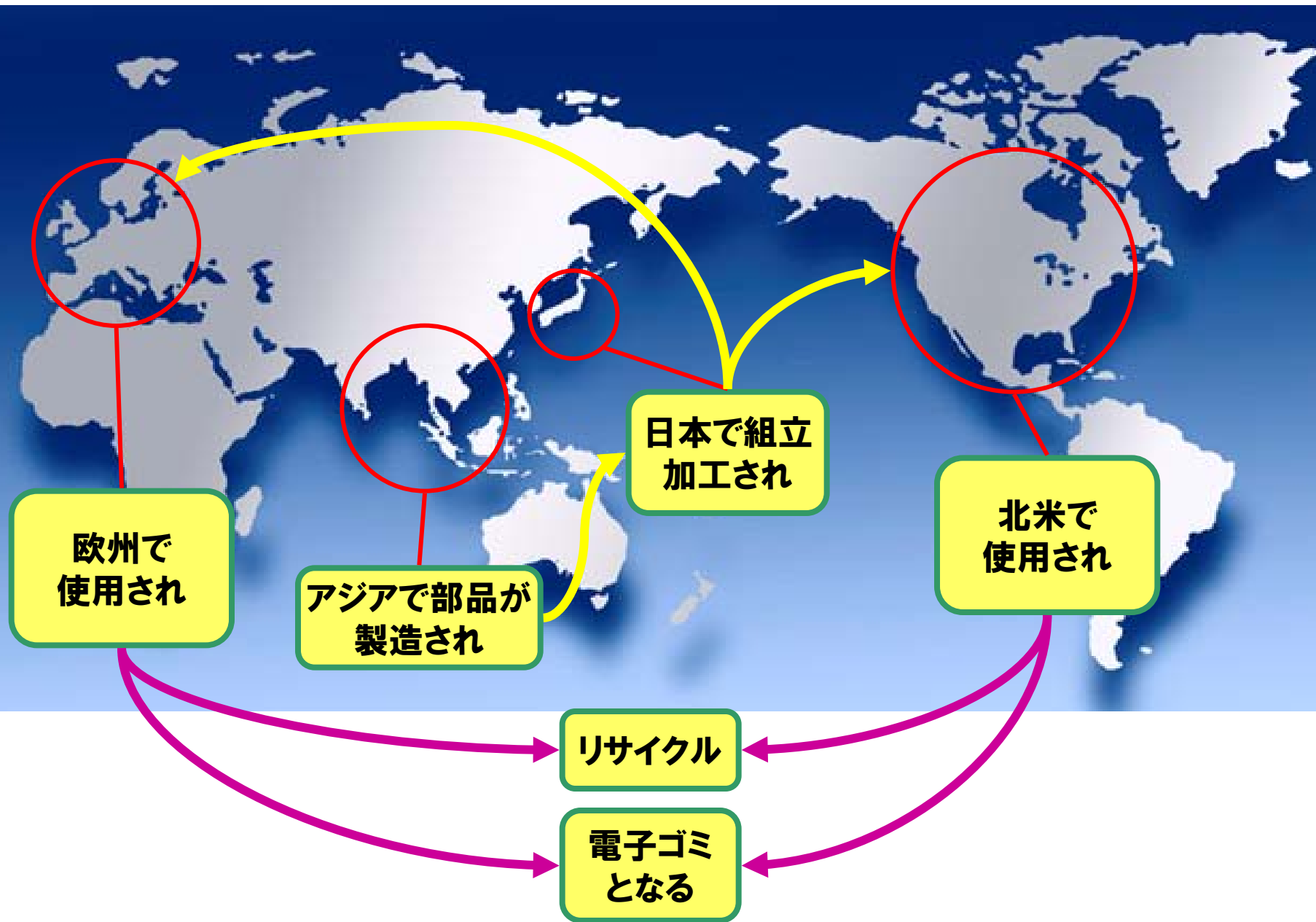


注:
SC: Supply Chain
AS: Application Service

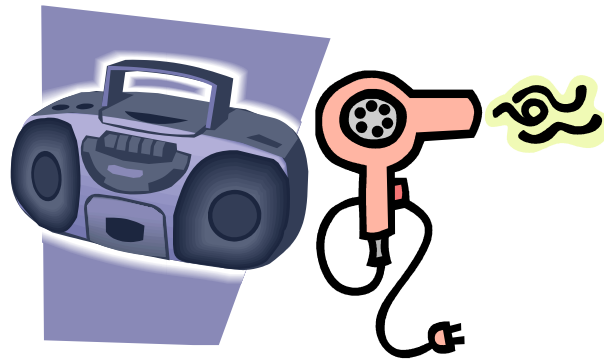
川中への啓発と課題



グローバルな展開の必要性



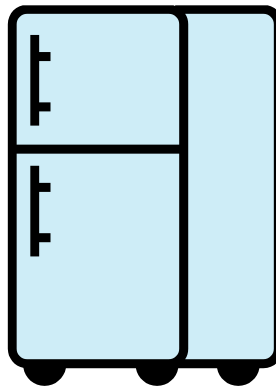
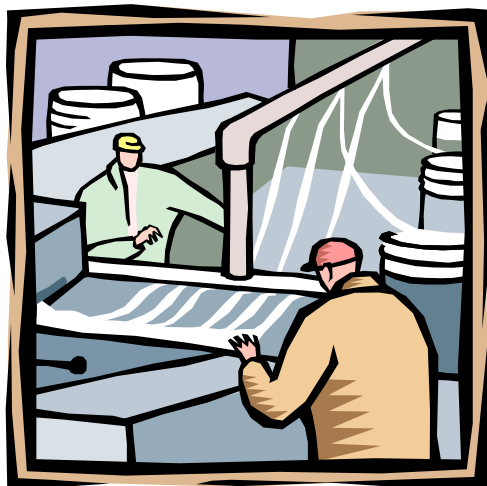
製品ライフサイクルと 化学物質リスクマネジメント



労働安全

使用時の安全

廃棄時の安全



JAMPを通じた取組の方向性 まとめ

